

私どもの日本語教室「日本語サロン edobata」が間もなく 11 周年を迎えるという今年 1 月下旬、新型コロナウイルスの感染拡大が武漢で始まっていました。教室には毎週 30 人を超える中国人が来場し、旧正月で帰国する人や親族が来日する人なども多いとも聞き、ボランティアそして学習者の安全を第一に考え、どこの教室よりも早く、2 月初めから教室を休会しました。それは、私どもの教室の活動が正に 3 密だったからです。会場である清新町コミュニティ会館では、集会室 3 室に学習者とボランティア 70 人～80 人が長机をはさんで座り、1 対 1 の向かい合わせで 2 時間大きな声で話し、休み時間には全員が一緒に茶菓を楽しみ、歩き回り交流しました。登録しておけば、いつでも参加できるという自由さと 3 密の一体感が教室の人気の秘密だったのかも知れません。



学習風景



日本語発表会

間もなく、感染は国内でも拡大し、休会が長期間に及ぶことが見えてきました。そんなとき、人とも会えず、話も出来ず、長い巣ごもりで元気をなくしたボランティアから「オンラインで友だちと話をして、顔も見られて、元気が出た！」という声を聞き、対面式の教室が休会の間はオンライン会話をしてはどうだろうかというアイデアが生まれました。半月かけてシステムや陣容を整え、いざ始めて見ると、学習者たちからは「在宅勤務で話もできず、ましてや日本語を話す機会もなく、日本語を忘れそうだったので、先生と日本語がたくさん話せて嬉しい」との声が異口同音に聞こえるようになりました。



このような経緯をたどり、5月から毎週土曜日にオンライン会話を開催しています。会話に使うソフトはSkypeやZoomですがボランティアも初めから使いこなせた人ばかりでなく、新しくチャレンジして覚えた人など様々ですが、練習会などもして、みんなで学び、今では15人位が参加しています。

また、学習者との1対1のオンライン会話が終わった後で、参加しているボランティアが大勢参加して、打ち合わせと称して、オンライン飲み会をしたり、本来の打ち合わせをしたりしています。お互いにみんなの顔を見て、元気をもらっています。

日本語サロンedobata 国際江戸端会議



今回、オンライン会話の活動を開始したことで、私自身はもちろん、多くのボランティアの巣ごもり生活に活気が生まれ、新しい生活様式の一つオンラインを体感し、新たな意欲も生まれてきたのではないかと考えています。対面式の教室の再開も待たれますが、それも3密を避けての教室運営が求められます。早急にアフターコロナの新しい日本語教室の在り方を考えていかなければなりません。

国際江戸端会議 端 計子

